**20 『都のつと』**

その、なほかなたこなたへしりしにといふ所に年久しく住みて、仮にも里などへもでぬ聖ありけるを、村の人ひげ僧など名づけたるとかや、いづれの所のいかなる人とも①さらに知られず。その所に冬の程は侍りて、春に成りしかばへ越え侍りしに、思はざるに、一夜の宿を貸す人あり。の初めの程なりしに、の梅のやうやう散り過ぎたる木の間にめる月の影もびかなる心地して、所のも、松の柱、竹める垣し渡して、ゐ中びたる、さるに住みなしたるもありて見えしに、家であひて、心ある様に旅のへをとぶらひつつ、世をひそめける心ざしの程など、細かに問ひ聞きて、「われも②常なき世の有様を思ひ知らぬにはあらねども、③背かれぬ身ののみ多くてかかづらひ侍る程に、(ア)あらましのみにて今日まで過ぐし侍りつるに、今夜の物語にⓐなむ、捨てかねける心の怠りも今更驚かれて」など言ひて、「しはここにりて、道の疲れをも休めよ」と語らひしかど、末に急ぐ事ありし程に、秋の頃必ず立ち帰るべき由、契りおきて出でぬ。

その秋ばかりに、かの行方も(イ)おぼつかなくて、わざと立ち寄りてひ侍りしかば、その人は亡くなりて、今日日の法事行ふ由答へしに、(ウ)なさも言ふ限りなき心地して、などか今少し急ぎてねざりけん、さしもねんごろにⓑ頼めしに、偽りのある世ながらも、いかめと思はれけんと、心憂くぞ侍りし。さの有様など尋ね聞きしかば、「今はの時までも申し出でしものを」とて、跡の人々泣きあへりの身、初めて驚くべきにはあらねども、無常迅速なる程も、今更思ひ知られ侍りし。さてもこの人は、に好ける心のありし中にも、歌の浦波に心を寄せ侍りしと、人々語りしかば、昔を尋ねて、心ざしの行くところを、いささか宿の壁に書きつけて、出で侍りぬ。

語　注

知識＝「善知識」の略。高徳の僧、名僧のこと。

遍参＝禅僧が諸国を行脚して、各地の寺の高僧から教えを受けること。

秩父山＝現在の埼玉県西部の山。

上野国＝現在の群馬県。

七日の法事＝初七日。没後七日目。

空頼め＝あてにならないことを期待させること。

終の有様＝臨終の様子。

有待の身＝仏教語で、人間のこと。

和歌の浦波＝紀州の名所にちなんで、和歌のことを「和歌の浦波」という。

素意＝本来の願い。宿願。

問1　波線部(ア)～(ウ)の意味として最も適当なものをそれぞれ次から選べ。（4点×3）

(ア)　ア　計画　　イ　予測　　ウ　概略

　　エ　予定　　オ　願望

〔　　　〕

(イ)　ア　疑わしくて

　　イ　待ち遠しくて

　　ウ　気にかかって

　　エ　はっきりわからなくて

　　オ　心配で

〔　　　〕

(ウ)　ア　決め手のなさ

　　イ　張り合いのなさ

　　ウ　思い切りのなさ

　　エ　堪え切れなさ

　　オ　仕方のなさ

〔　　　〕

問2　二重傍線部ⓐ「なむ」の結びの説明として最も適当なものを次から選べ。（3点）

ア　結びが表現されずに省略されている。

イ　結びは「ける」で正しく呼応している。

ウ　結びが「ける」の所で結ばず流れている。

エ　「驚かれ」の所で結ばず流れている。

〔　　　〕

問3　二重傍線部ⓑ「頼め」について。

⑴活用の種類と活用形を答えよ。（完答で4点）

〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　　　　形〕

⑵誰が誰に何をさせたのか答えよ。（8点）

〔

〕

問4　傍線部①を口語訳せよ。（7点）

〔

〕

問5　傍線部②「常なき世の有様」を象徴的に示す言葉を、本文中から抜き出せ。（8点）

〔

〕

問6　傍線部③について「絆」とは具体的には何を示すか。本文中から抜き出せ。（8点）

〔

〕

練習問題〈語の識別②「なむ」〉

傍線部「なむ」の文法的説明を後から選べ。

①いつしか梅咲かなむ。（　　　）

②明け果てぬなり。帰りなむ。（　　　）

③その人、かたちよりは心なむまさりたりける。（　　　）

④死なば一所で死なむ。（　　　）

ア　完了（強意）の助動詞「な」＋推量（意志）の助動詞「む」

イ　願望の終助詞「なむ」

ウ　強意の係助詞「なむ」

エ　ナ変動詞の活用語尾「な」＋推量（意志）の助動詞「む」

【解答】

問1　(ア)＝オ　(イ)＝ウ　(ウ)＝イ

問2　エ

問3　⑴下二段活用・連用（形）

　　　⑵筆者（宗久）が、一夜の宿を貸した主に、秋の再訪をあてにさせた。

問4　全く知ることができない

問5　無常迅速

問6　跡の人々

【練習問題解答＋口語訳】

①イ《早く梅の花が咲いてほしい。》

②ア《明け果ててしまった。帰ってしまおう。》

③ウ《その人は、よりも心がすぐれていた。》

④エ《死ぬのならば一所で死のう。》